

## 市谷議員 再々要望項目一覧

令和元年度11月補正分

要望項目	左 対 する 対 応 方 針 等
<p>(1) 淀江産廃処分場計画関連調査について</p> <p>昨日知事が記者会見において、「地下水や水質、地質などの専門家で作る調査会を立ち上げ、計画地の地下水が水源地に流れ込まないか、県独自の調査を行う事を決めた。今後住民説明会を開き、本年度中に予備調査、来年度に本格調査に着手する」と述べ、関連予算が11月議会に提案されようとしている。</p> <p>これまでも、県が税金をつかって、地下水流向調査や専門家会議が行われてきたが、その際、米子・淀江の飲み水を心配する市民から、米子市水道局顧問の吉谷昭彦鳥取大学名誉教授の知見を活かすよう要望が出ていたが、知事は、「公平性」を理由に吉谷先生の見解を聞こうとしなかった。「公平性」とは何であろうか。調査をする際、一番大切なのは、現地のことを調査してきた学者の意見に耳を傾けることである。</p> <p>この度の調査においても、「公平性」を理由に、吉谷先生の意見を聞かないとしているが、吉谷先生は、従来から相当な労力と時間を費やして大山山系の地質や地下水及び地下水脈の調査をしてきた学者であり、産廃予定地を含む大山の土石流で作られた扇状地の地質からは、福井水源地に地下水が流れ込むことは否定できないとしている。調査をするというのであれば、吉谷先生の知見を活かすこと。</p> <p>なお、今回の調査関連予算について、従来から行われてきた住民・議会に予算編成過程の公開を経ないで、急遽議会運営委員会に提示してきたやり方は、住民・議会との信頼関係を裏切るものであることは指摘せざるを得ない。こうしたやり方は、淀江産廃に関連して前回9月議会に続けて2度目の出来事である。今回わずか5日前の11月15日に行われた政調政審（予算の事前説明）の際には、一切説明がなかったのは、どういうことであろうか。急な災害対応ならいざ知らず、今回のような重要な調査のやり方について、住民や議会に説明もなく、意見を聞くこともなく、トップダウンで提案してきたことは、今後の調査の進め方においても、こうしたトップダウンの手法でやられるのではないかとの疑念が拭い去れないこと警告し、米子・淀江の水を心配する市民の声を聞いて対応すべきであることを要望する。</p>	<p>新設する予定の地下水等調査会は、中立性、公平性を確保するため、これまで淀江産廃処分場に関わりのない第三者的な立場の有識者で構成することを考えており、公正な調査会運営を図っていきたい。</p> <p>関連予算については、議会運営委員会直前まで慎重に検討を重ねてきた結果であり、その内容については全議員に説明を行うなど、真摯に対応している。</p>